

シリーズ 米国 売りなき政治を問う

米政府資料で判明

米国が地獄規模で築いてきた海外基地の数が近年で最少になつたとみられることが、米国防総省がこのほど公表した「2023年度版基地構造報告」で判明しました。沖縄県名護市辺野古の米重新基地をはじめ、住民の反対の声を聽みにつけ、巨額の税金を投じて基地を提供し続ける日本政府の異常ぶりが問われます。

↓関連③面

米軍海外基地 昨年最少に

税金で強化 日本の異常突出

アメリカン大学のデビッド・バイン教授によれば、米軍は米ソ冷戦末期の1989年、約1600の海外基地を

アーリカン大学のデビッド・バイン教授によれば、米軍は米ソ冷戦末期の1989年、約1600の海外基地を

維持していましたが、その後は閉鎖が続き、2001年9月から22年9月の15年で見ても月々大幅に減少しています。基地の減少に伴い、海外兵力も減少。米国防

省の統計によれば、08年9月の23万6千250人から22年9月には17万3千600人と激減しています。

これの統計には「秘密基地」や「対テロ」戦争拠点なども含まれています。

一方、在日米軍基地数も同様に減少、ドイツ国内(約4万2千490人から22年9月)は1万5千300人と増えています。

日本基地の総評価額は約1400億ドル(約20兆8800億円)以上、ドイツ国内(約4万2千490人から22年9月)は1万5千300人と増えています。(ドイツは3万5千70人)。米4軍の海外兵力約17万人中31・7%が日本に駐留している計算です。

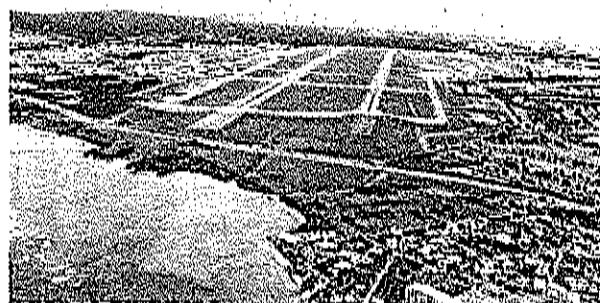
■米軍の海外基地数の推移	
2007年9月	761
08 //	716
09 //	662
10 //	611
11 //	666
12 //	598
13 //	576
14 //	587
15 //	*
16 //	517
17 //	514
18 //	*
19 //	520
20 //	525
21 //	544
22 //	511
(減少幅)	-250
※	※はデータなし

■米軍海外基地・資産評価額上位

(単位・100万㌦)

① 嘉手納(空、日本)	18,835
② キャンプ・ハンフリー(陸、韓国)	16,277
③ 岩国(海兵、日本)	14,989
④ 横須賀(海、日本)	13,668
⑤ 三沢(空、日本)	13,002
⑥ 横田(空、日本)	12,016
⑦ グアンタナモ(海、キューバ)	9,894
⑧ キャンプ瑞慶斎(海兵、日本)	8,093
⑨ ティエゴガルシア(海、英領)	6,325
⑩ オサン(空、韓国)	6,066

*2022年9月現在、米領グアムは除外



米空軍嘉手納基地(沖縄県提供)

